



ビオトープ・セミナー 資格試験に挑戦して基礎知識を修得しよう！

ビオトープ管理士資格試験過去問題 出展：(財)日本生態系協会主催「ビオトープ管理士セミナー」のテキストより
無断転載禁止：本紙は財団法人日本生態系協会の許可を得て転載しています。(編集担当)

【計画部門：正答・解説は次号で紹介】

問024：総合公園を計画・設計する際の対応について述べた次の文のうち、正しいものの組み合わせはどれですか。

- a. 基本計画の作成に当たっては、できる限り地域住民が参加する機会を設ける。
- b. サインは、利用者にわかりやすいように、周辺の緑の中でも目立つ配色とする。
- c. 希少種の生息地を改変する恐れのある場合は、まず敷地内での代償措置を考える。
- d. 都市公園法に基づく総合公園は、都市緑地法に基づく緑の基本計画とは基本的に関係がないので、あえて整合を取る必要はない。
- e. 住民参加により基本方針が決定した段階であったが、計画敷地内に希少野生生物が発見されたので、生息環境を保全するプランを追加する。

1. aとc 2. aとe 3. bとc 4. cとd 5. cとe

前号022の正答「2」

外来生物法では、生きた個体だけではなく、卵や種子も同様に規制されています。一般的には「外来生物」も「移入生物」も同意とされていますが、外来生物法においては「外来生物は海外原産種」と限定されています。ハリエンジュやトウネズミモチも各地で問題になっている海外原産の緑化樹木ですが、特定外来生物の指定には至っていません。生物の輸出入に関しては外来生物法に限らず、各種の条約や法条例によって規制されています。また、それらの規制は毛皮や象牙のように生きた個体や卵・種子に限りません。現在のところ第12条において「鳥獣保護法の適用除外」とされています。しかし、野生生物保護団体から「錯誤捕獲、混獲、違法捕獲、密猟などの混在により、在来の野性鳥獣の保護に支障をきたす」との理由で「鳥獣保護法における捕獲の手続きを上回る規定を求める」といった運動が起きています。

ビオトープ・ナビ Q&Aコーナー

記者：樫本幸実(会員)

環境教育において、純粋な子どもたちが心を痛めることは辛いことです。また、自然体験活動で、「取っちゃダメ! (希少種) 取らなきゃダメ! (外来種)」といったことも。このようなことが無用になることを願いたいものです。以下は、環境学習の後に寄せられた質問とその回答です。回答が適切か否かは難しいところですが、皆さんなら「なにをどのように」に伝えますか? 良きアドバイスについてお便りをお寄せください。

【小学6年生の質問】

このまま行くと地球は何年後にダメになるのか?

- ・わかっていません。ダメになるのは地球ではなく人間で、地球や自然は自ら再生する(よみがえる)でしょう。
- ・ダメにならないように一人ひとりが努力すれば、人間の影響を少なくすることができます。

北極などの氷はいつぐらいでなくなるのか?

- ・わかっていません。温暖化の影響は、地球シミュレーター(巨大なコンピューター)を使って研究中です。経済成長(暮らし方)の変化や技術革新(新しいエネルギーや技術の発見)によってどのような違いが現れるかといったことを世界中の優れた科学者や技術者が研究しています。
- ・温暖化防止のために一人ひとりが努力すれば、人間の影響を少なくすることができます。でも、地球の環境はとても長い時間をかけて変化を繰り返していますから、人間の力ではどうしようもないこともあります。

【中学3年生の質問】

徳島に現れた南方系(暖帯や亜熱帯)の生物は?

- ・温暖化が原因(下線)の他に、人間が持ち込んだり、輸入材にくっついていたりしてやって来た生物は、ナガサキアゲハ/ウスキロシロチョウ/ヤクシマルリシジミ/クロマダラソテツシジミ/キョウチクトウスズメ/イチジクヒトリモドキ/ベニトンボ/ミナミアオカメムシ/トゲレイシガイダマシ/セアカゴケグモ/アルゼンチンアリ/ボタンウキクサ/アゾラ/クリスタータ/アマゾントチカガミ/オオフサモ/ホテイアオイ/オオカナダモ/ナルトサワギク/メリケントキンソウ/シナダレスズメガヤ/シマツユクサなど。
- ・「特定外来生物」「外来種」「新帰化生物」「帰化生物」「史前帰化生物」などを調べてみるのも良いでしょう。

地球上のCO₂を効率よく減らす方法はないのか?

- ・二酸化炭素地中貯留技術が研究・開発されています。これは、大気中の二酸化炭素を地下深くの不透水層(水を通さない地層)の下の帯水層(水を多く含む地層)に閉じ込める技術です。しかし、不透水層の断層、帯水層の水流、閉じ込める時に空けた穴を塞ぐセメントプラグ(栓のようなもの)の経年劣化(年数によって弱くなる)など、安全性や確実性に問題があります。省エネルギーや自然エネルギーのための科学技術の研究や開発が期待されています。
- ・不自然な方法は、必ず新たな問題(副作用)が発生しますから、なるべく出さない努力が先ですね。自然に近い森林を増やし、建物はコンクリートや鉄を減らして木を使い、いろいろな生活用品は再生不可能な鉱物資源(石油:プラスチックやビニール等)を少なくし、再生可能な生物資源(木・竹・草や骨・角・毛・皮等)の材料で作ったものができるだけ長く使う。このようなことを一人ひとりが努力し、社会の仕組みを変えていくことも必要でしょう。

ビオトープ・カルテ みんなで集めるビオトープ情報

記者：櫻本幸実（会員）



【特定外来生物オンパレード】

ビオトープ・タイプ：河川（渡内川：石井町）

規模：5～50m×3000m

環境特性：中流部に止水域や瀬が広がり、サギ類やカルガモが多数生息。

周辺土地利用：新・旧の住宅地、バイパス整備により大型店舗や飲食店が進出。

撮影年月日：2009年9月～2010年11月28日

場所：渡内川の「飯尾川合流地点」から上流約3km区間



渡内川はカルガモやサギ類が多く生息し、周辺の水田や水路ではタシギ（冬鳥）やチュウサギ（準絶滅危惧）の飛来も見られる。しかし、外来生物も多く、ウシガエル、オオクチバス、ブルーギル、オオキンケイギク、アレチウリ、オオフサモ、アゾラ・クリスタータ等の特定外来生き物の他、オオカナダモやホテイアオイ、一部にリュウキュウアサガオの定着も見られる。

下流は飯尾川に合流するが、今夏には飯尾川でアゾラ・クリスタータの大繁殖が見られた。浮き草は、水鳥を介しての拡大も予想されるため、両河川は今後、注視する必要がある。

COP10名古屋で生物多様性に注目が集まったが、現場の課題は山積。



ビオトープ・サロン 熱血オジサン奮闘記！ ～ブログ-ビオトープ気延の里～

寄稿：石井町のわんぱくおじさん（ビオトープ気延の里）

【秋の虫 ～石井小学校から120人～ 9月10日 晴れ】



9月10日 晴れ まだ残暑が厳しい今年。いつになったら涼しくなるんでしょうね。

まだまだ暑いということで、朝の涼しいうちにと9時集合で、石井小学校の3年生120人あまりが昆虫探しにやってきました。

東王子神社の中、パッハの広場、その広場の隣の休耕田へ。気温は真夏ですが、いましました、秋の虫たちが。トノサマバッタ、シヨウリョウバッタ、オンブバッタ、それから…。たくさんの虫たちの顔が見えました。

自分たちの出番をどうしてわかるんでしょうね。気温はまさに真夏だということに、不思議ですね。トノサマガエルも何匹を見つけました。しかもかなり大きいのが。これは今年の子じゃなく、去年のお兄さんかな？

ご指導はまたまた佐那河内ネイチャーセンターの市原先生に無理を言ってしまうました。感謝！感謝！

編集後記

ビオトープに関するお役立ち情報のもとより、皆様の活動やお仕事、日常生活を通じて見たり感じたりしたこと、身近な自然の春夏秋冬や喜怒哀楽のご寄稿をお待ちしております。 ふるってご参加ください！ 編集局

【E-mail：kanv@nifty.com URL：http://biotopetokushima.yu-yake.com】